

**留学先国名** : カナダ

**留学先学校名** : ゲルフ大学

**留学期間** : 平成 27 年 5 月 4 日 ~ 平成 27 年 12 月 18 日

留学は本当に人それぞれです。自分にとって価値のある留学をするために皆さんに言いたいことはまずなぜ、何をしに、何のために行くのかを行く前によく考えておくことです。留学中は働けません、すごくお金がかかります。ただ行ったからといってそれがアドバンテージになることはおそらくないと思います。私の学校の場合、ホームステイすることが絶対条件だったためにうまくホストファミリーとコミュニケーションが取れずに不満を漏らす友達を何人も見てきました。私は将来、英語教員になるために英語のプロフェッショナルになることと日本語教員になるために日本語指導のボランティアに参加することを目的に留学しました。ゲルフ大学での勉強が自分の予想をはるかに上回るほど忙しく、ボランティアには参加できませんでしたが英語コースにもかかわらず、プレゼンテーションやペーパーは自分の専攻している

ものを選べたので英語教育についての知識も広まりました。海外における学習のアドバイスとしてはやはり友達を作ることだと思います。何か困った時に助けてくれますし、教室内での居心地も良くなります。二つ目は思っていることを口に出すことです。海外は日本と違います。ただ相手の顔色を伺っているだけでは自分が何を思っている、どういう人間なのか伝わりません。私が行ったカナダは多様性のある国です。英語がうまく話せないときでも聞き手は理解しようと努めてくれます。違った意見や感想があったとしても決して否定しません。色々な人の考え方を知るためにも、できるだけたくさんの人と出会って思った事を話すと良いと思います。留学において人見知りをしたり、シャイな性格を理由に人と関わらないのは本当に損です。話す事でしかスピーキング力は伸びないからです。そして、現地で築いた人間関係は自分の宝物になると思います。留学中は辛くて、たまに何でやっているのか考えたり、自分の英語力の無さに絶望した事もありました。しかし逃げられません。考え方を改めて自分で努力する以外ありません。日本にいたら考えないようなことをいっぱい考えるチャンスがいっぱいあります。以上のことを踏まえても私は留学に行けて本当に良かったと思っています。

私はカナダのゲルフ大学の英語コースで8ヶ月間勉強しました。カナダに行く前はそれほど学習面で困ることはないと思っていましたが、大間違いでした。後から聞いたところによるとゲルフ大学は他大学よりも内容が難しく（内容が4年生大学、博士課程に入るためのアカデミックコースのため）、課される宿題、毎週1つ以上はあるプレゼンテーションやリサーチペーパーをこなすことで精一杯でした。カナダに行く前の私の目標の一つに日本語や日本文化を教えるボランティアに参加することがありました。しかし学校が始まってからは、それをしようと思う時間、体力そして気力もありませんでした。そのために一時期ではありますが自分が何のために留学に来たのかわからなくなりました。課題のためにずっと部屋にいたり、図書館にいて人とコミュニケーションする暇もなかったからだだと思います。何回もクラスのレベルを変えてもらおうかと悩み、その度自分が思っていることをクラスメイトやホストファミリーに相談していくうちに、自分のために頑張るだけでは

なく、この人たちのために頑張りたいと思うようになりました。そして自分でも一週間に一回は絶対楽しい予定を入れることによって、気持ち的にかなり楽になりました。結果、辛い時は隠さずに身近にいる人に辛いということを伝えて、息抜きをすることが大切だと思います。学習面では主にカナダの大学に入るための勉強をしました。北米の大学は日本と違って、何の課題をするときも引用したら必ず引用元を書くことが絶対条件です。（もし欠けていればカンニング扱い、0点どころか退学になります。）そして、私の場合、何かを暗記してテストされるということは一切ありませんでした。あくまでリサーチベースで自分がどう思うかを書き、発言もします。ディスカッションもディベートも準備がすごく大変ですが、日本の授業と違って他の学生がある事項についてどのように思っているのかを聞くことができるし、自分が絶対正しいと思っても反対意見を持っている人がいれば必ず理由を説明してくれるので、自分の考えもより深いものになります。このような点が私が経験した学習面での日本の大学との違いです。4ヶ月を過ぎたあたりから、私のリサーチペーパーやプレゼンは全て教育関連となりました。その中でも日本の英語教育の問題点についてプレゼンテーションしたのが思い出深く残っています。主に日本人のスピーキング力を問題にし、原因が英語教育の始動開始時期の遅さ、クラスの人数の多さ、授業内容（教員が英語を日本語で教えるために、生徒が英語に親しみを持たない。）や受験制度（リーディングやライティングの方が重視される。）ことを紹介しました。すると同じ日本人の留学生から、なぜ日本人は英語を話さなければならないのか。日本を出ない限り英語は必要ないのではないかという質問を受けました。この質問は生徒が教師によくする質問の一つでしょう。しかし、なぜ生徒は学ぶ理由を探すのでしょうか。それらは私が上記に挙げた三つが原因だと考えます。上記のような教育制度のままでは親しみがなかったために（英語を実際に話す機会がほとんどないため）生徒が英語に興味を持ち、進んで勉強することはないでしょう。このように私は英語コースに通っていたものの、日本の英語教育について深く考えることができました。この留学で学んだのはそれだけではありません。私はカナダで暮らして、本当にたくさんの人種の方々と出会いました。カナダではそれが当たり前で、異なった文化や宗教が周りから変だと思われることはありません。どこにいても様々な言語が聞こえるし、格好も人それぞれ違います。日本でもし人と違ったら、周りの人はその人を変だと感じるでしょう。しかし、日本人がカナダの人たちのように周りに対する理解力が高ければ、観光客はもっと増えるでしょう。例えば、イスラム教の人たちは宗教上の理由で豚肉が食べられません。カナダではその人たちのためにハラール表示をしています。それによってイスラム教の人たちは安心して食事をし、生活することができます。もし日本にもこのような制度が浸透していれば、イスラム教の観光客層をもっと伸ばすことができるのではないかと思います。最近、ニュースなど ISIS の報道がされていて、イスラム教徒の方々を勘違いする人もいますが、全員が全員一概に一緒であるとは決して言えません。日本の教育カリキュラムの中に、自分とは違う世界もあって、それは間違いではないと生徒が感じて、異文化に対する理解ができる授業や日本だけにとどまらず世界規模で物事を考えられる習慣を身につけられるような授業がもっとあればと思います。留学で得たこれらの経験や知識はもちろん自分にとって素晴らしいものになりました。さらに将来的に教員になった時には私だけではなく、これらは生徒のためにもなってくるだろうと考えます。経験談以上にこの留学プログラムに参加したおかげで、現実的に英語を話すこと、書くこと、読むこと、聞くことができれば得られる情報が変わり、様々な考え方ができると感じたので、教員になった時には生徒のために、よりリアルな授業ができると思います。